

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0470900309		
法人名	有限会社 サンヨー		
事業所名	グループホーム 貞山みよりの家 ユニット:海		
所在地	宮城県多賀城市大代3丁目7-72		
自己評価作成日	平成29年1月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/04/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	平成29年2月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域との交流を大切に思いやりと親切をモットーに、いつでも目配りや気配り、心配りを怠らず相手の話を聞き笑顔でサポート致します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

駐在所が隣接しており、近くに病院、小学校、中学校、幼稚園、スーパーがある。事業所理念は「安全と安心で、思いやりのある穏やかな生活を支える」とあり、職員は毎日唱和し、ホームのチームワークが取れている、働きやすいとの意見が聞かれ、利用者の変化にそったケアに表れていることがうかがえる。管理者は利用者の思いをくみ取れるように、会議や研修を通じて職員に理解を深めるよう求めている。医療機関のかかりつけ医、月2回の訪問診療、週2回の看護師との連携で健康管理がなされ、安全安心につながっている。地域との関係では、「ホーム貞山みよりの家便り」を町内会に50部配布、毎月ボランティアを招き、同時にカフェを開催し好評を得ている。家族アンケートからは「家庭的」「笑顔で接して貰っている」などホームへの信頼と職員への感謝が見て取れる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果（事業所名 GH貞山みよりの家 ）「ユニット名 海」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミーティングでは、理念について話し合い具体的なケアについて意見の統一を図っている又職員が常に目に触れる廊下、事務室会議室に掲示し、申し送り時にも理念に触れて、常に意識するようになっている。	理念は「安全と安心で、思いやりのある穏やかな生活を支える」とし、毎日のミーティング時に唱和し確認している。職員は名札を付けこの裏面にも理念が印刷されている。見回りや入浴・食事介助時等、常に安全を心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、町内会主催の行事にも積極的に参加し、日本舞踏やカラオケのボランティアを招き、カフェを開き地域の方がいつでも行き来出来るようにしている。ホーム便りを地域の方に配布している。	町内会新年会に管理者が、敬老会には利用者も参加している。中学校の職場体験を継続して受け入れ、認知症サポーター養成講座の講師を引き受けている。幼稚園にもつながりを持っている。保育園児を招待する計画を立てている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者は、事業所での実践内容を踏まえ様々な研修、会合に関わりながら認知症ケアの啓発に努めている。又人材育成の貢献として実習生の受入も行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市職員、地域包括職員、町内会長、民生委員警察署や消防署、家族などが参加し年6回開催している。現在取り組んでいる内容についても報告し、意見をもらうようにしている。	市職員・地域包括職員・町内会長・民生委員・警察署員・消防署員・家族の参加で、年6回開催し、ホームの報告や参加者との意見交換が行われている。看板に「認知症」の文字があるので近所の方が敬遠しているとの意見も出された。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市職員の方が運営推進会議や外部評価に参加して頂き、事業所の状況を把握していただけるようにしている。ホーム便りも毎月届けて行き来する機会をつくりサービスの質の向上に取り組んでいる。	市職員は運営推進会議に参加しており、ホームの状況を把握している。毎月の「貞山みよりの家便り」を持参し状況を話している。生活保護利用者について相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する勉強会を事業所の中で実施し、職員の共有を図っている。利用者様個人個人の尊厳を大切に、玄関の施錠は無くいつでも出入りが可能な状態にしている。	毎年、「身体拘束・高齢者虐待」をしないために研修を行い、職員は拘束や虐待による利用者の受ける弊害を理解したうえで、ケアを行っている。防犯上の施錠は19:00～7:00とし、それ以外の時間は開錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やミーティング等を実施し、高齢者虐待防止法に関する理解浸透や遵守に向けた取り組みを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	機会あるごとに職員への説明を行っている。対応が必要と思われる利用者がある場合は随時職員に対する説明、アドバイスをしながら利用者の支援に結びつけている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間を取り、特に料金や起こりうるリスク重度化や看取りについての対応、医療連携体制の実際などについて詳しく説明し、同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会に合わせてクリスマス会を開催し、意見や要望を聞き家族の意見や要望は職員間で共有し、運営に活かしている。来訪時にも声をかけ、利用者の状況や家族について話し合っている。	家族会を年1回開催している。また、日常的に担当職員や管理者が家族との交流を図るように努めている。利用者の身の回りのことや、看取りについてなどの相談を受けている。第三者委員として、民生委員を委嘱している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング、勉強会で意見を聞くようにしている。又日頃からコミュニケーションを図るように心がけ問いかけたり、聞き出したりするようにしている。	ユニットや朝夕のミーティング時や全体会議が運営について意見・提案の機会であり、情報の共有の場でもある。職員による委員会は給食・レクリエーション・環境・車両と防災があり分担して事業運営の向上の提案などしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、経営者に対して機会あるごとに現場の状況について詳しく報告を行っている。職員が落ち着いて働けるよう環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に応じた内容の研修に参加出来るように心掛けている。又研修内容をミーティング、勉強会等で報告する機会を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会のブロック会議に出席し連携を図ったり、研修会に出席し質の向上に励んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活状態を把握するよう努め、又利用者によっては通所で利用してもらい、本人の不安や要望を理解するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人がおかれている状況を理解し、苦しんでいること困っていることを把握し、家族との疑問にも具体的に話し合いをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状況を見極め可能な限り柔軟な対応行う、又改善に向けた支援と信頼関係を築きながらサービスに繋げるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いや根本にある苦しみ、不安、喜びなどを知ること努め、暮らしの中で分かち合い、共に支えあえる環境作りに留意している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の思いに寄り添いながら、日々の暮らしの出来事や、気づきの情報共有に努め、本人と一緒に支えるために、家族と同じような思いで支援していることを伝える。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、友人等の訪問時は、部屋でお茶を飲みながらゆっくり過ごせるように環境作りおしている。馴染みの美容室やお盆の墓参り、自宅に行けるように支援している。ヤクルト販売での買い物を楽しみにしている利用者もいる。	行きつけの美容室への送迎などを行っている。お盆の墓参りを家族と行かれるよう支援している。家族や友人の訪問時は居室で過ごせるよう配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同志の関係性について情報を連携し、職員が共有できるようにしている。みんなで楽しく過ごす時間や気の合う同志で過ごせる場面作りもしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了された方にも電話で状況を伺ったり、又遊びに来て頂けるように声がけをし、継続的な付き合いが出来るように心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で職歴や趣味等を把握し、ケアに生かしている。歌や踊りが得意な方には、披露してもらう機会を作り、それぞれの得意な分野で満足感が得られるよう支援している。	日常の会話の中から、思いや、趣味、生活歴を把握し、日常生活に活かすように努めている。踊りが趣味の人の仲間が訪問し一緒に披露したり、歌を楽しんだり、市場にいた人が魚の調理をしたりしている。家族の知らないことが分かったこともある。	「認知症ケア専門士」を複数配置することで、認知症ケアの更なる向上を目指すことを期待する。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用時に自宅に訪問したり、ご本人やご家族関係者等から聞き取るようにしている。利用後も折に触れ、ご本人やご家族にどんな生活をしていたのかを聴いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを理解し、生活心理面の視点や出来ないことより出来ることに注目し、その人の全体の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、医師、職員の意見を反映させ介護計画を作成し、定期的にあセスメント、モニタリングを行っている。医師からの食事、水分の制限の指導を受け対応している。	カンファレンスで、担当職員がアセスメントして職員間で共有している。介護計画は職員の意見や医師からの指示を反映して作成している。職員の意見から、多人数の場所で緊張して食事出来ない人が居室で食べることで解決につながった。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、食事、水分量、排泄等、身体状況及び日々の暮らしの様子や本人の言葉エピソード等を記録している。いつでも全ての職員が確認出来るようにしている。勤務前の確認も義務付けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	認知症対応の居住環境や職員の機能を生かして自宅で暮らす認知症対応のデイサービスを提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して地域で暮らしを続けられるように町内会長、民生委員、警察の方を運営推進会議に出席して頂き、交流連携を取っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望のかかりつけ医を受診し、基本的には家族が付き添い報告を受け、医療関連記録に記入する。また家族の状況に応じてホームで送迎を行っている。	希望のかかりつけ医を受診し、通院には家族が付添う。「医療機関との情報・連絡記録」に個人ごとの情報が記載され、ホーム・家族・医師で情報が共有されている。往診医がかかりつけ医の場合月2回訪問診療を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行うことが出来るようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人に関する情報を医療機関に提供し、職員も見舞うようにしている。また家族とも情報交換をしながら回復状況等を伺い速やかな退院支援に結びつけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入院時に看取りに関するホーム方針を説明し、双方で確認を得、医療機関や訪問看護の説明をしている。重度化や終末期に関して家族の意向に応えられるよう対応している。	「看取りに関する指針」は、利用開始時に説明している。看取りが必要になった時に再度家族と確認している。家族の意向に応えるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の容態の急変や事故発生時の対応マニュアルを作成し、各ユニットに常備してある。又所内研修も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、避難訓練、避難経路の確認、消火器等の訓練を定期的に行っている。備蓄等も準備している。	消防署の協力で、避難訓練・消火器訓練・避難経路の確認を行っている。今年は4回実施した。町内会長・民生委員とのホットラインがあり夜間時は駆け付ける体制が出来ている。非常食の備蓄は2週間分確保している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会やミーティングの折に、職員の意識向上を図っている又言葉遣いや接し方に配慮し呼び名は希望に沿って名字、名前さん付けで呼んでいる。	年間計画で研修を行っている。話しかけるときは相手の目線に合わせている。トイレは男女別々にしている。入浴は基本的に同性介助としている。呼び方は「さん」付けで呼んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員側で決めたことを押し付けるようなことはせず、複数の選択肢を提案して一人ひとりの利用者が自分で決める場面を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にできるだけ個別性のある支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個別生活習慣に合わせ支援をし、化粧やおしゃれを楽しんでもらえるように取り組んでいる。行きつけの美容院や訪問理容等を利用しカット、毛染め等出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは利用者と相談しながら決めている毎月行事食、誕生日には利用者希望を聞き手作りしている。片付けも職員と一緒にし食事を大切な活動にしている。	献立は給食委員会が利用者の希望に合わせて作っている。毎月の行事食や誕生会は希望を聞いて手作りしている(刺身も出る)。外食も計画されている。職員も利用者と一緒に食事をし、出来る利用者が準備・片付けに関わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日チェック表に記録し、職員が情報を共有している。食事内容を写真で残し、家族に便りで報告している。残食も記録して栄養摂取量を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を職員一人ひとりが把握し毎食後の口腔ケアの声がけを行い一人ひとりに応じて職員が支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、様子を見ながらトイレ誘導し、排泄が自立出来るように支援している。便秘には腹部マッサージなどで対応しており、医師や看護師の指導を受けている。	排泄チェック表でパターンを把握し、様子を見ながら誘導しトイレで排泄出来るよう支援している。布パンやリハパンなどその人にあったものを使用している。便秘の人には医師の指示で薬を使うこともある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材に繊維質が多い食材や、乳製品を取り入れている。リクレーション、家事活動等身体を動かす機会を適度に設けて、自然排便出来るよう取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	大浴場は月、水、金に個浴は入浴の希望があれば午前9時から午後7時の間で入浴支援をしている。体調により、足浴、マッサージも行っている。	入浴は週3回で夜7時迄支援を行っている。体調や気分によって足浴される人もいる。マイ石鹸持参の人や、気の合う人と入浴を楽しむ人もいる。同性介助を基本にしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活のリズムを整えるように努めている。又一人ひとりの体調や表情希望を考慮しゆっくり休憩とれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の服薬ファイルを作成し、処方箋のコピーを利用者毎に整理し、職員が内容を把握できるようにしている。服薬時は飲み込むまで確認し、飲み忘れや誤薬防止の為投薬チェック表を作成している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の後の、食器ふきや、洗濯物のたたみなどの作業分担をできる方にして頂き、作業終了後は感謝の言葉を伝えている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間行事は、花見、新緑、紅葉狩り、温泉旅行、地域での行事の参加などを行っている。日常的には、美容院やスーパーの買い物などの支援を行っている。家族と一緒に墓参りなどへ外出する方もいる。	日帰り温泉入浴、新緑・花見・紅葉など行楽弁当持参で出かけている。町内会行事の敬老会への参加、墓参り、正月に自宅泊する人もいる。買い物にスーパーへ出かける支援も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力を得て少額のお金を持っているひといる。家族よりお金を預り事務所で管理している人でも、外出時に買い物した時は、自分で支払っていただけるようにお金を手渡すなどの工夫をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お孫さんとの手紙のやりとりや、友人、親戚、家族等にTELを出来るように支援している。又プライバシーにも配慮することも工夫している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	気持ち良く暮らして頂けるように清掃は徹底し、昼、夜を感じて頂けるようにしている。又利用者と一緒に季節に応じた飾り付けを心掛けています。利用者の写真も毎月張替えている。	玄関入り口に雛人形が飾られていた。ホールは日差しが入って明るく、温・湿度が調整されている。ユニット毎の共用空間にも雛人形や季節の歌の歌詞が貼られおり、季節毎の飾りを利用者と職員が作っている。1階ホールでのイベント時は、畳の部屋が舞台になり、両ユニット全員で楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホール、階段の踊り場に椅子やソファ、小さなテーブル等を置き絵画や花等で装飾し居心地の良さに配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた日用品を持ち込んで頂き、利用者が不安なく生活出来るようにしている。又写真、テレビ、仏壇なども持ち込み落ち着いて生活出来るように配慮している。	居室入り口に利用者のイメージの花の写真が飾られている。洗面台・洋服ダンスが備え付けられ、ベッド・テレビなど使い慣れたものを持ち込み使用している。花・写真・仏壇があるなど、その人の生活を続けるにふさわしい設えになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員は利用者と同じ空間で記録等の事務作業を行いながら、全員の状況を把握するように努めている。夜は数時間ごとに確認するとともに起きられた時にはすぐ対応できるよう工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0470900309		
法人名	有限会社 サンヨー		
事業所名	グループホーム 貞山みよりの家 ユニット:空		
所在地	宮城県多賀城市大代3丁目7-72		
自己評価作成日	平成29年1月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/04/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	平成29年2月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域との交流を大切に思いやりと親切をモットーに、いつでも目配りや気配り、心配りを怠らず相手の話を聞き笑顔でサポート致します。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>駐在所が隣接しており、近くに病院、小学校、中学校、幼稚園、スーパーがある。事業所理念は「安全と安心で、思いやりのある穏やかな生活を支える」とあり、職員は毎日唱和し、ホームのチームワークが取れている、働きやすいとの意見が聞かれ、利用者の変化にそったケアに表れていることがうかがえる。管理者は利用者の思いをくみ取れるように、会議や研修を通じて職員に理解を深めるよう求めている。医療機関のかかりつけ医、月2回の訪問診療、週2回の看護師との連携で健康管理がなされ、安全安心につながっている。地域との関係では、「ホーム貞山みよりの家便り」を町内会に50部配布、毎月ボランティアを招き、同時にカフェを開催し好評を得ている。家族アンケートからは「家庭的」「笑顔で接して貰っている」などホームへの信頼と職員への感謝が見て取れる。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果（事業所名 GH貞山みよりの家）「ユニット名 空」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミーティングでは、理念について話し合い具体的なケアについて意見の統一を図っている又職員が常に目に触れる廊下、事務室会議室に掲示し、申し送り時にも理念に触れて、常に意識するようになっている。	理念は「安全と安心で、思いやりのある穏やかな生活を支える」とし、毎日のミーティング時に唱和し確認している。職員は名札を付けこの裏面にも理念が印刷されている。見回りや入浴・食事介助時等、常に安全を心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、町内会主催の行事にも積極的に参加し、日本舞踏やカラオケのボランティアを招き、カフェを開き地域の方がいつでも行き来出来るようになっている。ホーム便りを地域の方に配布している。	町内会新年会に管理者が、敬老会には利用者も参加している。中学校の職場体験を継続して受け入れ、認知症サポーター養成講座の講師を引き受けている。幼稚園にもつながりを持っている。保育園児を招待する計画を立てている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者は、事業所での実践内容を踏まえ様々な研修、会合に関わりながら認知症ケアの啓発に努めている。又人材育成の貢献として実習生の受入も行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市職員、地域包括職員、町内会長、民生委員警察署や消防署、家族などが参加し年6回開催している。現在取り組んでいる内容についても報告し、意見をもらうようになっている。	市職員・地域包括職員・町内会長・民生委員・警察署員・消防署員・家族の参加で、年6回開催し、ホームの報告や参加者との意見交換が行われている。看板に「認知症」の文字があるので近所の方が敬遠しているとの意見も出された。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市職員の方が運営推進会議や外部評価に参加して頂き、事業所の状況を把握していただけるようになっている。ホーム便りも毎月届けて行き来している。機会をつくりサービスの質の向上に取り組んでいる。	市職員は運営推進会議に参加しており、ホームの状況を把握している。毎月の「貞山みよりの家便り」を持参し状況を話している。生活保護利用者について相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する勉強会を事業所の中で実施し、職員の共有を図っている。利用者様個人個人の尊厳を大切に、玄関の施錠は無くいつでも出入りが可能な状態になっている。	毎年、「身体拘束・高齢者虐待」をしないために研修を行い、職員は拘束や虐待による利用者の受ける弊害を理解したうえで、ケアを行っている。防犯上の施錠は19:00～7:00とし、それ以外の時間は開錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やミーティング等を実施し、高齢者虐待防止法に関する理解浸透や遵守に向けた取り組みを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	機会あるごとに職員への説明を行っている。対応が必要と思われる利用者がある場合は随時職員に対する説明、アドバイスをしながら利用者の支援に結びつけている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間を取り、特に料金や起こりうるリスク重体化や看取りについての対応、医療連携体制の実際などについて詳しく説明し、同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会に合わせてクリスマス会を開催し、意見や要望を聞き家族の意見や要望は職員間で共有し、運営に活かしている。来訪時にも声をかけ、利用者の状況や家族について話し合っている。	家族会を年1回開催している。また、日常的に担当職員や管理者が家族との交流を図るように努めている。利用者の身の回りのことや、看取りについてなどの相談を受けている。第三者委員として、民生委員を委嘱している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング、勉強会で意見を聞くようにしている。又日頃からコミュニケーションを図るように心がけ問いかけたり、聞き出したりするようにしている。	ユニットや朝夕のミーティング時や全体会議が運営について意見・提案の機会であり、情報の共有の場でもある。職員による委員会は給食・レクリエーション・環境・車両と防災があり分担して事業運営の向上の提案などしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、経営者に対して機会あるごとに現場の状況について詳しく報告を行っている。職員が落ち着いて働けるよう環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に応じた内容の研修に参加出来るように心掛けている。又研修内容をミーティング、勉強会等で報告する機会を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会のブロック会議に出席し連携を図ったり、研修会に出席し質の向上に励んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活状態を把握するよう努め、又利用者によっては通所で利用してもらい、本人の不安や要望を理解するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人がおかれている状況を理解し、苦しんでいること困っていることを把握し、家族との疑問にも具体的に話し合いをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状況を見極め可能な限り柔軟な対応行う、又改善に向けた支援と信頼関係を築きながらサービスに繋げるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いや根本にある苦しみ、不安、喜びなどを知ること努め、暮らしの中で分かち合い、共に支えあえる環境作りに留意している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の思いに寄り添いながら、日々の暮らしの出来事や、気づきの情報共有に努め、本人と一緒に支えるために、家族と同じような思いで支援していることを伝える。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、友人等の訪問時は、部屋でお茶を飲みながらゆっくり過ごせるように環境作りおしている。馴染みの美容室やお盆の墓参り、自宅に行けるように支援している。ヤクルト販売での買い物を楽しみにしている利用者もいる。	行きつけの美容室への送迎などを行っている。お盆の墓参りを家族と行かれるよう支援している。家族や友人の訪問時は居室で過ごせるよう配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同志の関係性について情報を連携し、職員が共有できるようにしている。みんなで楽しく過ごす時間や気の合う同志で過ごせる場面作りもしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了された方にも電話で状況を伺ったり、又遊びに来て頂けるように声がけをし、継続的な付き合いが出来るように心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で職歴や趣味等を把握し、ケアに生かしている。歌や踊りが得意な方には、披露してもらう機会を作り、それぞれの得意な分野で満足感が得られるよう支援している。	日常の会話の中から、思いや、趣味、生活歴を把握し、日常生活に活かすように努めている。踊りが趣味の人の仲間が訪問し一緒に披露したり、歌を楽しんだり、市場にいた人が魚の調理をしたりしている。家族の知らないことが分かったこともある。	「認知症ケア専門士」を複数配置することで、認知症ケアの更なる向上を目指すことを期待する。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用時に自宅に訪問したり、ご本人やご家族関係者等から聞き取るようにしている。利用後も折に触れ、ご本人やご家族にどんな生活をしていたのかを聴いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを理解し、生活心理面の視点や出来ないことより出来ることに注目し、その人の全体の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、医師、職員の意見を反映させ介護計画を作成し、定期的にアセスメント、モニタリングを行っている。医師からの食事、水分の制限の指導を受け対応している。	カンファレンスで、担当職員がアセスメントして職員間で共有している。介護計画は職員の意見や医師からの指示を反映して作成している。職員の意見から、多人数の場所で緊張して食事出来ない人が居室で食べることで解決につながった。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、食事、水分量、排泄等、身体状況及び日々の暮らしの様子や本人の言葉エピソード等を記録している。いつでも全ての職員が確認出来るようにしている。勤務前の確認も義務付けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	認知症対応の居住環境や職員の機能を生かして自宅で暮らす認知症対応のサービスを提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して地域で暮らしを続けられるように町内会長、民生委員、警察の方を運営推進会議に出席して頂き、交流連携を取っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望のかかりつけ医を受診し、基本的には家族が付き添い報告を受け、医療関連記録に記入する。また家族の状況に応じてホームで送迎を行っている。	希望のかかりつけ医を受診し、通院には家族が付添う。「医療機関との情報・連絡記録」に個人ごとの情報が記載され、ホーム・家族・医師で情報が共有されている。往診医がかかりつけ医の場合月2回訪問診療を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行うことが出来るようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人に関する情報を医療機関に提供し、職員も見舞うようにしている。また家族とも情報交換をしながら回復状況等を伺い速やかな退院支援に結びつけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入院時に看取りに関するホーム方針を説明し、双方で確認を得、医療機関や訪問看護の説明をしている。重度化や終末期に関して家族の意向に応えられるよう対応している。	「看取りに関する指針」は、利用開始時に説明している。看取りが必要になった時に再度家族と確認している。家族の意向に応えるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の容態の急変や事故発生時の対応マニュアルを作成し、各ユニットに常備している。又所内研修も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、避難訓練、避難経路の確認、消火器等の訓練を定期的に行っている。備蓄等も準備している。	消防署の協力で、避難訓練・消火器訓練・避難経路の確認を行っている。今年は4回実施した。町内会長・民生委員とのホットラインがあり夜間時は駆け付ける体制が出来ている。非常食の備蓄は2週間分確保している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会やミーティングの折に、職員の意識向上を図っている又言葉遣いや接し方に配慮し呼び名は希望に沿って名字、名前さん付けで呼んでいる。	年間計画で研修を行っている。話しかけるときは相手の目線に合わせている。トイレは男女別々にしている。入浴は基本的に同性介助としている。呼び方は「さん」付けで呼んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員側で決めたことを押し付けるようなことはせず、複数の選択肢を提案して一人ひとりの利用者が自分で決める場面を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にできるだけ個別性のある支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個別生活習慣に合わせ支援をし、化粧やおしゃれを楽しんでもらえるように取り組んでいる。行きつけの美容院や訪問理容等を利用しカット、毛染め等出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは利用者と相談しながら決めている毎月行事食、誕生日には利用者希望を聞き手作りしている。片付けも職員と一緒にし食事を大切な活動にしている。	献立は給食委員会が利用者の希望に合わせて作っている。毎月の行事食や誕生会は希望を聞いて手作りしている(刺身も出る)。外食も計画されている。職員も利用者と一緒に食事をし、出来る利用者が準備・片付けに関わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日チェック表に記録し、職員が情報を共有している。食事内容を写真で残し、家族に便りで報告している。残食も記録して栄養摂取量を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を職員一人ひとりが把握し毎食後の口腔ケアの声がけを行い一人ひとりに応じて職員が支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、様子を見ながらトイレ誘導し、排泄が自立出来るように支援している。便秘には腹部マッサージなどで対応しており、医師や看護師の指導を受けている。	排泄チェック表でパターンを把握し、様子を見ながら誘導しトイレで排泄出来るよう支援している。布パンやリハパンなどその人にあったものを使用している。便秘の人には医師の指示で薬を使うこともある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材に繊維質が多い食材や、乳製品を取り入れている。リクレーション、家事活動等身体を動かす機会を適度に設けて、自然排便出来るよう取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	大浴場は月、水、金に個浴は入浴の希望があれば午前9時から午後7時の間で入浴支援をしている。体調により、足浴、マッサージも行っている。	入浴は週3回で夜7時迄支援を行っている。体調や気分によって足浴される人もいる。マイ石鹸持参の人や、気の合う人と入浴を楽しむ人もいる。同性介助を基本にしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活のリズムを整えるように努めている。又一人ひとりの体調や表情希望を考慮しゆっくり休憩とれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の服薬ファイルを作成し、処方箋のコピーを利用者毎に整理し、職員が内容を把握できるようにしている。服薬時は飲み込むまで確認し、飲み忘れや誤薬防止の為投薬チェック表を作成している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の後の、食器ふきや、洗濯物のたたみなどの作業分担をできる方にして頂き、作業終了後は感謝の言葉を伝えている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間行事は、花見、新緑、紅葉狩り、温泉旅行、地域での行事の参加などを行っている。日常的には、美容院やスーパーの買い物などの支援を行っている。家族と一緒に墓などへ外出する方もいる。	日帰り温泉入浴、新緑・花見・紅葉など行楽弁当持参で出かけている。町内会行事の敬老会への参加、墓参り、正月に自宅泊する人もいる。買い物にスーパーへ出かける支援も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力の協力を得て少額のお金を持っているひともある。家族よりお金を預り事務所で管理している人でも、外出時に買い物した時は、自分で支払っていただけるようにお金を手渡すなどの工夫をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お孫さんとの手紙のやりとりや、友人、親戚、家族等にTELを出来るように支援している。又プライバシーにも配慮することも工夫している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	気持ち良く暮らして頂けるように清掃は徹底し、昼、夜を感じて頂けるようにしている。又利用者と一緒に季節に応じた飾り付けを心掛けている。利用者の写真も毎月張替えている。	玄関入り口に雛人形が飾られていた。ホールは日差しが入って明るく、温・湿度が調整されている。ユニット毎の共用空間にも雛人形や季節の歌の歌詞が貼られおり、季節毎の飾りを利用者と職員が作っている。1階ホールでのイベント時は、畳の部屋が舞台になり、両ユニット全員で楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホール、階段の踊り場に椅子やソファ、小さなテーブル等を置き絵画や花等で装飾し居心地の良さに配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた日用品を持ち込んで頂き、利用者が不安なく生活出来るようにしている。又写真、テレビ、仏壇なども持ち込み落ち着いて生活出来るように配慮している。	居室入り口に利用者のイメージの花の写真が飾られている。洗面台・洋服ダンスが備え付けられ、ベッド・テレビなど使い慣れたものを持ち込み使用している。花・写真・仏壇があるなど、その人の生活を続けるにふさわしい設えになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員は利用者と同じ空間で記録等の事務作業を行いながら、全員の状況を把握するように努めている。夜は数時間ごとに確認するとともに起きられた時にはすぐ対応できるよう工夫している。		